

## 第 3 回（2012 年度）助成研究表彰式・受賞記念講演会

助成研究成果表彰は、優れた成果をあげた助成研究者に与えられるもので、本年度も 18 名の応募があり、技術委員会による厳正な審査により各賞の候補者を選考し、外部専門家の意見照会を経て、6月8日の理事会で3名の方の受賞が決定いたしました。

9月12日に鉄鋼会館において表彰式ならびに受賞記念講演会が行われました。当日は青木理事長の挨拶、幸田技術委員長の講評の後、理事長よりステンレス製の表彰状と副賞が受賞者に授与され、引き続き受賞者による受賞記念講演が行われました。

### 【各賞の受賞者】

#### 1. 理事長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	中村 慎一郎	所属	早稲田大学 政治経済学術院・教授
助成研究期間	3年：2006年11月～2008年10月		
研究テーマ	鉄鋼ライフサイクルにおける廃棄物・副産物利用技術の廃棄物産業連関(WIO)分析		
研究成果	Cr, Ni などを用いた高機能鋼材がリサイクルの過程で希釈され質的劣化が生じる可能性がある。国内外で利用が進んでいるハイブリッド LCA で考慮されなかった質的劣化を評価する手法を開発した。これにより、資源の有効活用でき、温室効果ガスを低減効果などが評価可能となった。		

#### 2. 技術委員長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者に贈られる。		
氏名	木田 徹也	所属	九州大学大学院総合理工学研究院・准教授
助成研究期間	2年間：2007年11月～2008年10月		
研究テーマ	空気からの選択的酸素分離膜材料の設計開発		
研究成果	酸素分離膜材料として高価な Co を含まずに Zr や Ni、La を用いた中高温域で高酸素透過性を有する膜を開発した。この膜は 930℃で 25 cm <sup>3</sup> /(min cm <sup>2</sup> ) と極めて高い酸素透過流速を有しており実用化が期待される。		

#### 3. 鉄鋼技術賞

賞の性格	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	中村 祐二	所属	北海道大学 大学院工学研究院・准教授
助成研究期間	2年間：2008年11月～2009年10月		
研究テーマ	低公害型（低 NOx・低 PM）の超希薄燃焼場に対する診断方法の確立		
研究成果	氏らが考案した「アセトンOH同時PLIF法」を用いた超希薄燃焼場（等量比 0.6 以下）の可視化に成功し診断技術を確立した。これにより、省エネルギー・低公害型の超希薄燃焼器の開発促進が期待される。		

【 表彰式ならびに記念講演会の状況 】



授賞式記念撮影

幸田技術委員長・中村祐二准教授・木田哲也准教授・中村慎一郎教授・青木理事長



理事長賞 中村 慎一郎 早稲田大学 教授 技術委員長賞 木田 徹也 九州大学 准教授 鉄鋼技術賞 中村 祐二 北海道大学 准教授



記念講演会 聴講風景